

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第51回 北海道博物館大会 函館市で開催しました

7月5・6日の2日間、北海道博物館大会を函館市で開催しました。

大会初日は函館国際ホテルを会場に、午前中は開会式・総会および表彰式を実施、午後は特別報告とシンポジウムを経て閉会式までの日程です。

会場に設けた120席はほぼ満席の状態となり、壇上には大会の横断幕を掲げてその下にメインスクリーンを配置、左側に司会席、右側にはサブスクリーンで次第と発表内容等を順次表示しました。

開会式後の総会では、議長に市立函館博物館の田原良信館長が、副議長に遠軽町教育委員会白滝教育センターの鴻上栄治所長が選出され、8項目の議案が滞りなく承認されました。その中でも北海道博物館協会の「あり方検討委員会」座長の澤村寛理事から、今後の北海道博物館協会のあり方について指針となる報告がありました。

表彰式では、枝幸町文化財保護委員の村上良子会長と市立函館博物館・財団法人アイヌ民族博物館の児玉マリ特別研究員(代理)の両氏に、堀会長から表彰状と記念品が授与されました。

午後からは一般市民も多数参加し、特別報告では、日本博物館協会の半田昌之専務理事から日本博物館協会の主要事項と最近の動向について、北海道教育庁文化財・博物館課の高林仁和主幹から北海道の博物館行政の概要について報告がありました。また、国立公文書館アジア歴史資料センターの濱田幸夫次

長補佐から同センター所蔵資料のデータベースとその利用について紹介がありました。

その後、昨年3月に発生した東日本大震災による博物館の被災資料のレスキュー活動に参加した釧路市立美術館の瀬戸厚志学芸員から、被災資料の現状と救出作業の様子をお話いただきました。

シンポジウムでは、五稜郭タワー株式会社の中野晋氏、箱館歴史散歩の会の中尾仁彦氏、伝統的建造物旧相馬邸の東出伸二氏、知内町郷土資料館の高橋豊彦氏から個々の事例発表の後、地域におけるまちづくりと、まちづくりに博物館が果たせる役割について討議しました。

大会二日目は、近年開館した3施設を巡るバス見学会を実施しました。

平成18年に建て替えられた五稜郭タワーでは、展望台から見下ろす特別史跡五稜郭跡の概要について木村企画室長による説明の後、市立函館博物館の田原館長の案内で五稜郭内まで進み、一昨年に復元された箱館奉行所を見学しました。

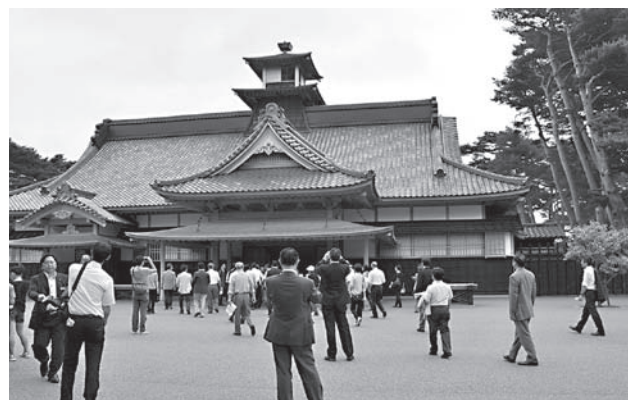
五稜郭からはバスで南茅部地区に向かい、昨年10月に開館した函館市縄文文化交流センターの見学を行いました。保存のため照度を落とした薄暗い特別展示室の中に佇む中空土偶の幻想的な姿が印象的でした。

また、バス見学終了後に、シンポジウム発表者の一人である東出氏のご厚意で伝統的建造物旧相馬邸の見学を行い、参加した希望者約20名が築100年を超える日本建築の魅力を堪能しました。

(市立函館博物館 学芸員 野村祐一)



シンポジウム「博物館とまちづくり」



特別史跡五稜郭跡内に復元された箱館奉行所



### 「新収蔵品展2012」の開催

有島記念館では、顕彰作家である有島武郎や、武郎が狩太(現・ニセコ町)に所有した有島農場に関する資料のほか、各種文学資料、ニセコ町の歴史的資料などを幅広く収集・保存しています。しかしながら、当館をはじめ、全国各地の文学館共通の問題として、資料購入費の不足に悩んでおり、購入による資料収集は難しい状況におかれています。「資料を収集・保存し、後世に継承する」という文学館としての本質的機能が危機的状況にあるなか、近年、それを補って余りあるほど、全国各地のみならず、資料寄贈の申し出を頂戴しました。

そのような受贈資料などを公開する場として、武郎の命日にあたる6月9日(土)より、「新収蔵品展2012」を企画・開催しました。

本展の目玉は、今年3月にその存在が初めて確認され、初公開となる武郎のペン画「羅馬古城壁」、再評価が高まっている鳥瞰図画家・吉田初三郎がニセコ周辺を描いた「狩太町道立公園ニセコ観光鳥瞰図」です。これらの作品の展示については、地元紙等で紹介され、多くの方からの問合せや来館を頂いています。この他、有島農場管理人を長く勤めた吉川銀之丞関連



「新収蔵品展2012」展示風景

資料をはじめ、全国の個人の方から受贈した資料を多数展示しています。

なお、本展は9月末で閉会の予定が、新規受贈・収蔵資料が増えたため、11月3日(土)まで会期を延長して開催します。当館初の武郎の自筆原稿となる「雑信一束」、武郎が妹・愛に贈った為書・署名入「有島武郎著作集」13冊、武郎が札幌農学校時代の同級生・半澤洵(後の北海道大学教授)に宛てた年賀状などを追加公開します。

貴重な数多くの資料を受贈しましたが、資料の価値を引き出し、社会に伝えることは学芸員の仕事です。その責任を果たすために、文学館活動を着実に進めていきたいと考えています。

(有島記念館 学芸員 伊藤大介)



### 連携・協働ツールとしてのアンケート分析

前号のこの項で紹介した「第2回郷土学講座」(平成24年2月18日開催)では、114名分の参加者アンケートについてCS分析という手法を使った事業評価を行った(詳細は道南ブロックのブログを参照 <http://dounan.exblog.jp/>)。

CS分析は製品開発やサービス改善に用いられるアンケート分析の手法で、各種の属性について満足度と重要度という2指標で評価するものである。聞けば難しそうなのだが、エクセルなどの表計算ソフトで簡単に計算できる。

CS分析はそれぞれの評価項目について、数値によって厳然と優劣がつく。そのような作業が博物館事業になじむのか、という疑問もある。しかし、事業がうまくいったのか、失敗したのか、それはなぜか、を私たちは常に考えなければならない。私たちは日常的に事業の要素に優劣を付け「評価」を行っているのである。今回実施したCS分析も私たちが日常的に行う評価と何ら変わることはない。「評価」の目的は「改善」なのである。

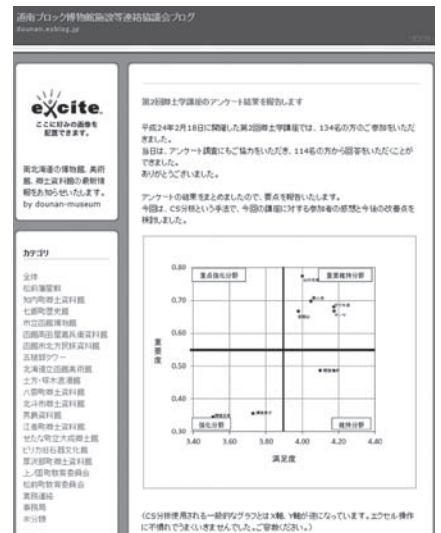
あえてCS分析という手間のかかる方法を選択したのは、この事業が博物館施設どうしの連携事業として実施されたものだからである。連携事業で評価を行う

場合には日頃の業務環境の違いや事業のとらえ方の違いで主観的な評価には差が生じる。主観的な評価に頼らず評価を数値化することによって高いレベルで共通認識を形成して改善点を議論することができる。

「新しい公共」概念が提言されて以来、連携や協働が博物館のみならず地方自治の重要なテーマとなっている。前提が異なる相手との協働において主観に頼って議論を進めては破綻する可能性は高い。客観的な指標を元に対象に対して高いレベルで共通認識を形成することが、バックボーンの異なる組織・個人が連携するためには必要となる。

たかがアンケート、されどアンケートなのである。

(厚沢部町郷土資料館 学芸員 石井淳平)







## エコミュージアムセンター 開館十周年を迎えて

2002年7月に旧佐久中学校を全面改装してオープンした自然誌博物館・宿泊型研修体験複合施設・中川町エコミュージアムセンターは、今年オープン十周年を迎えた。

開館十周年記念特別展「エコミュージアムセンター10年の歩み」では、東アジア初の発見となった恐竜時代の海水魚ナカガワニシンやテリジノサウルス類の発見、白亜紀の化学合成生物群集化石の発見、オフイチ



記念モニュメント「アンモナイトの樹」の除幕

ヤシ跡調査など、10年間の天塩中川地域の調査・研究の成果を紹介した。今回の特別展では、研究成果をよりわかりやすく解説するため、これまでの研究で明らかになった事柄から当時の中川の様子を想像し、「ナカガワニシンの魚柱」、「白亜紀の海底温泉」など恐竜時代の四景をパソコンで描く“デジ絵”で表現した。一方、センターの運営を支えてきた地域住民ボランティアとの10年の歩みもパネル展示で紹介した。

十周年に向けてエコミュージアムセンターの活動を支えてきた地域住民も準備を進めてきた。佐久ふるさと木工工芸会は、木のコブから約200個のアンモナイトが生み出されるような記念モニュメント「アンモナイトの樹」を製作いただいた。また、宿泊研修の食事提供を行なってきた「地域協力隊エコール咲く」は、センター内の食堂で、アロニアやハスカップ等のベリー類等地域食材を使ったオリジナルメニューを来館者に振る舞い、食堂は大混雑となった。

開館十周年特別展のオープニングは、これまでエコミュージアムセンターの運営に協力いただいていた地域住民の方々とともに祝うことができ、これからの10年に向けて新たな一歩となった。

(中川町エコミュージアムセンター 主査 足田吉識)



## 日胆地区 総会と研修会の開催予定

日胆地区博物館等連絡協議会では、通常は春先に開催されている総会が、事務局の都合により10月にまでずれ込んでしまいました。現在、10月3日・4日の日程で、初の開催となる厚真町にて準備が進められています。平成24年度総会のほか、初日には「古民家と町づくり」を題材に羽深久夫教授(札幌市立大学、建築デザイン学専攻)や厚真町まちづくり推進課担当の大坪主幹による講演が行なわれ、2日目には羽深教授の案内により町内の古民家内部の見学で構造とその変遷、地域的な特徴について講義を頂きます。その他、(公財)北海道埋蔵文化財センターによる朝日遺跡(縄文

晩期、約3000年前)の発掘現場見学が予定されています。重要な発見が相次いでいる遺跡発掘の成果のみならず、町内に点在する身近でかつ消えつつある茅葺、板葺の古い農家に着目して活用を図ることで農業の町、厚真町の地域活性化にもつなげている取り組みについて学ぶ予定です。

また、研修会については、同月の25日・26日に平取町にて「アイヌ伝承地保全の取り組み」をテーマに準備が進められています。初日は管内の取り組みの紹介、2日目は名勝ピリカノカの指定、チャン跡の周知化等の保護施策や、さまざまに行われている普及啓発事業について情報交換を行う予定です。

(むかわ町立穂別博物館 学芸員 櫻井和彦)



大正年間の板葺の古民家(厚真町)



朝日遺跡発掘状況(厚真町)



## 「道東のコウモリ展」を開催しました

根室市歴史と自然の資料館では、平成24年6月15日～7月31日の期間で、「道東のコウモリ展」を開催しました。今年は国際コウモリ年あたる年です。これまで、道東を中心にコウモリ類の調査を継続していますが、15種約5000個体を捕獲・放獣しており、その過程でコウモリ類に関する生態がわかってきました。展示では、根室にも多く生息するモモジロコウモリやドーベントンコウモリなど11種の剥製と調査時に撮影したコウモリ類のねぐらの写真を展示しました。このほか、昨年11月に大空町で国内初の発見となる、ヒメヒナコウモリの繁殖コロニーに関するコーナー、国後島で確認されたモモジロコウモリの白化個体に関するコーナー、コウモリ類調査で使用するバットディテクターやカシミ網などの調査機材を紹介するコーナーを設けました。これまでの捕獲調査から、根室市内には10種約5千～1万頭のコウモリ類がいると推定しています。西洋文化の影響で何かと忌み嫌われがちなコウモリ類ですが、コウモリ類は蚊を主なエサとしているため、人間に



コウモリ観察会で池の上を観察する様子

とっては益獣であるといえます。

展示期間中に「コウモリ観察会」も実施し、ドーベントンコウモリの採餌を確認しました。夏休み期間ということもあり親子連れが多く満員御礼でした。この展示は9月3日～28日の期間で別海町郷土資料館でも巡回展示しました。夜間に活動する動物の知られざる生態をより多くの人に知ってもらいたいと思います。

(根室市歴史と自然の資料館 学芸主査 近藤憲久)



## 北の大地の水族館 おんねゆ温泉「山の水族館」新規オープン

平成24年7月7日(土)道の駅おんねゆ温泉「山の水族館」が新規オープン。僅か2月間、9月10日(月)には、10万人の来場者を記録した。

水族館といえば、海水「海」というイメージであるが、身近な水に親しむスポットといえば、実は海よりも淡水の「川」ではないだろうか。

海に囲まれた北海道は、夏でも水温が低く、泳ぎを覚えた人の多くは、海よりも川で覚える。幼少のみぎり自称「河童」と呼ばれていた人生の先輩は「オホーツク海は真夏でも冷たくて泳げない。それに海水に比べて川の方が浮力がないので泳ぎが自然と上手になった」とのこと。

川魚の恩恵も得ることができる。ザリガニ釣りや小さなエビを捕まえて遊んだりした人も多いと思う。地元の市場には上がらないヤツメウナギの味は、本家のウナギに勝るとも劣らない。

そんな河川の魅力、淡水の底力をもっと知りたい。という私達を満足させてくれるのが北の大地の水族館「山の水族館」である。

### ○生命がきらめく滝つぼコーナー

日本初の滝つぼを真下から見上げる水槽。流れ落ちる水流と気泡に抗うオショロコマに小さいながらに野生を感じる。

### ○北の大魚イトウ

魔法の温泉水で育った1mを超えるイトウが20匹。合計40匹もの群れを成し悠々と泳ぐ姿は圧巻。



北の大魚イトウ

### ○遡上(ジャンプ水槽)

15～20分ごとに水かさか上下する水槽内で、小さなヤマメが溪流を元気に遡上する姿が見られる。

### ○北の大地の小さな生命

在来種ニホンザリガニやエゾサンショウウオ、エゾトミヨなど環境のバロメーターともいえる北の大地の独特の生命を紹介。

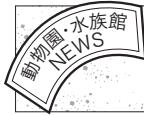
○その他、新熱帯区の川や東南アジアの川の生き物を紹介するほか、ふれあいタッチコーナーでは川の生き物たちと触れ合える。

さらに、四季をとおして観察できる室外水槽を用意、-20℃の厳寒の冬には水下の魚を身近に観察できる。

魚を大きく、美しく育てる「魔法の温泉水」の正体は、おんねゆ温泉郷の冷泉。水族館見学後は、自らを磨く湯治の時間もお取り願いたい。なお、お土産は、木工の町でもある留辺蘂の温もりある木工製品がお勧めです。

(紋別市立博物館 学芸員 小番宗幸)





## 千歳川サケのシーズン到来

夏真っ盛りの7月下旬、千歳川にはサケを捕獲するインディアン水車が設置され、8月初旬にはサケの姿が見られました。水車やサケを見ると、もうすぐ秋だなあと実感します。そして8月21日からサケの捕獲が始まり、秋の深まりとともにサケを見に来る方が増えてきました。

千歳川は、本格的なサケのふ化放流事業発祥の地です。1888年(明治21)官営の千歳中央ふ化場(現在の千歳さけます事業所)が建設され、1896年(明治29)から捕魚車(インディアン水車)を使ってサケの捕獲が始まりました。サケの捕獲は現在8月下旬から12月中旬頃まで行われ、千歳さけます事業所で採卵、受精させて稚魚まで育てた後、春に3千万匹の稚魚が放流されています。ちなみに、12月の捕獲終了後は千歳川から水車が撤去されますが、それ以降もサケは遡上し、館内の水中観察室の前や上流域で自然産卵しているのが見られます。

この時期、ふるさと館ではサケの展示だけでなく、採卵体験などサケを用いた教室を実施し、幼児から大人の方まで多くの方にご参加いただいています。また、学



サケの採卵体験の様子

校からの依頼で採卵から卵のふ化観察、稚魚の放流までを実施したり、隣接の公園内を流れる小川でサケ漁見学などのアイヌ学習などの学習協力も行っています。こうした体験学習はサケや千歳を知るよい機会であり、今後も内容の充実を図り、学校との連帯も深めながら実施していきたいと思っています。

さて、サケの遡上数は近年低迷していましたが、昨年は久々に20万匹を超えました。今年の予測は「昨年よりも多い」とのことで、この秋もたくさんの遡上を期待しています。

(千歳サケのふるさと館 学芸員 荒金利佳)



## 石狩観測所

もちろんありません、そんな施設は。

石狩のさまざまな自然の長期変動を、定点でひたすら観測・記録して公開し、後世に残す。それがこのプロジェクト「石狩観測所」。平成23年度の学芸員部会調査研究助成事業として採択されました。

定点観測というと、誰でも知っているのがアメダス。全国約1300地点で気温や降水量等を10分間ごとに記録し、データはweb上で誰でも見ることができます。しかし観測地点の間隔は十数kmで設定されているため、ローカルな自然誌調査に活用するには離れすぎていることが多いのです。気象ではなく、水温や塩分濃度、地形的なデータとなると、既存の長期データを利用することはもう絶望的。そこであらかじめ、地域の特徴的な地点で気温や水



融雪プールの自動記録式観測器

温など簡単な要素だけでも観測・記録を継続し、将来の調査研究に役立つデータを蓄積しよう、という考えです。データは当館webで公開していく予定。それを活用するのは自分かもしれないし、数十年後の別の誰かかもしれません。

「石狩観測所」観測項目の第1弾は、石狩の海岸林内で雪解け時期だけ形成される「融雪プール」の水温と気温。一時的に形成される水域に発生する甲殻類、キタホウネンエビの発生量の年変動と物理環境との関係や周期性を、長期的な記録から解明するのが最終目標です。温度ロガーを用いた自動記録式観測器を製作し、林内に設置しました。

今回の助成事業として実施したのは、わずか1地点だけの水温・気温観測です。しかし、今後も少しずつ観測器を増やして密度を上げ、温度だけでなく地形、生物など、観測要素も増やしていきます。画像による定点撮影も、手動ですがすでに試行しています。風景や街並などの撮影を継続すれば、数十年後には立派な古写真。地域の変遷の重要な記録となります。

このプロジェクト、はっきり言って、ただか1年間では何も成果は出ません。が、10年20年経ったとき、「あの時から記録していてよかった」

という時が必ずやってきます。長く続けること、そのためには、今、始めることが重要なのです。

「石狩観測所」、初めの1歩を踏み出しました。

(いしかり砂丘の風資料館 学芸員 志賀健司)



### 市民ボランティアの力でリピーター獲得に つながる事業展開～釧路市こども遊学館の取り組み～

平成17年7月に開館し、今年で7周年を迎えた当館は、これまで大幅な来館者数の減少もなく、毎年約10万人のペースで来館者を迎え続けている。その内、年間パスポートの利用者が全体の22%(昨年度実績)であることから、一定のリピーターも獲得しているといえる。

開館してからこれまで大型展示物のリニューアルなどは行なっていないが、毎日変化のある事業展開を心がけてきた。そのような事業を実施するためには、実施するマンパワーのみならず、事業企画に必要な新鮮なアイデアと市民ニーズの把握、下準備作業などがあげられるが、ここにボランティアが果たしている役割は大きい。

当館は、開館当初より市民協働・市民参加型の運営を推進してきた。現在活躍しているボランティアは、約200名。従来型の受動的な手伝いボランティアではなく、主体的に関わるボランティアとして、個々が持つ幅広い知識や技術・経験を発揮しながら、活発に事業に参加している。

当館で事業を実施する際には、事前研修などを設けて、スタッフとボランティアがアイデアを出し合う。ボランティアからは、豊富な経験から生み出されるアイ



互いにアイデアを出して～事前研修の様子

アや、来館者から聞き取った要望や感想などが提供される。それらは、実に多様で、事業をより良くするために役立つものが多い。

事業が多様化し実施数が増えるに従って、必要な下準備作業も増えていくが、ここでもボランティアは個々の技術を発揮し、作業にあたる。

地域子どもたちのために、地域のボランティアが惜しみなく力を注ぎ、その成果が遊学館の事業を通じて、地域に還元されていく。市民の手によるこの循環こそ、「いつ来ても、いつも一緒」ではなく、「いつ来ても、また違う」遊学館を実現化できている力、そのものである。

(釧路市こども遊学館 ボランティア担当 小笠原忍)



### ミュージアムロード事始

後志の厳しくも美しい自然と文化は、西村計雄や小川原脩、有島武郎の小説「生まれ出づる悩み」のモデルとなった木田金次郎などの優れた画家を生み、多くの人々を惹きつけました。しりべしミュージアムロードは、岩内・共和・倶知安・ニセコ・喜茂別、後志の5つの町、6つの美術館・文学館の結びつきです。

発端は木田金次郎美術館開設時、美術館が記載さ



共同展ポスター撮影で各町のジモキャラが勢揃い

れた地図作成に関する助成金の申請を行った際の、「単一町村ではなく広域で行うべき」という担当者の提案であったと聞いています。「瓢箪から駒、地図からミュージアムロード」意外なきっかけでできたこの結びつきは、地図・紹介VTR・パンフレットなどのPR活動で終わることなく、2002年からはミュージアムロード共同展という展覧会を行うまでに成長しました。

共同展では互いの美術館の作品を貸し合い、大きな1つのテーマに基づいて、各々の美術館が小テーマを設け企画展示しています。共同展は、各々の美術館で普段あまり展示されていない作品の展示や、各館を巡ることで作家たちの交流や時代性が感じられることなど、ネットワークを活かした展覧会が魅力です。

今年は「ヘンシン!」をテーマに、荒井・有島・小川原・木田・西村の5館によって、7月20日～8月19日までの夏休み期間に開催されました。期間中は入館料の相互割引やスタンプラリー、バスツアーなどのイベントも行われ、リピーターや知名度拡大などに効果が認められました。

ミュージアムロードを結んだ距離は実に94キロ、後志を愛した先人たちの足跡は、今また新しい広がりを生み出しています。

(財団法人荒井記念美術館 学芸員 小澤資子)



## 館・園の主な展覧会と普及事業

(平成24年11月～平成25年3月の行事予定)

### 石 狩

#### ●札幌市青少年科学館(011-892-5001)

- 1/5～20  
冬の特別展「名探偵サイエンジャーの科学捜査展」(仮)  
3/23～(未定)  
春の特別展  
11/2～4・16～18、12/7～9・21～24、1/11～13・  
1/18～20、2/8～11、3/1～3・15～17・29～31  
札幌市天文台夜間公開  
11/9～10、2/8～9  
字幕付きプラネタリウム  
11/9・16・30、2/1・8・15  
出前サイエンス  
11/17～18・23～25、2/16～17・23～24(予定)  
四次元デジタル宇宙シアター  
11/17～18、2/2～3  
ちびっこワークショップ  
11/23  
親子科学教室  
11/24、1/26  
イブニングプラネタリウム  
11/24、2/16  
大人の科学教室  
11/24、12/15、1/26、2/23、3/23  
科学館天体観望会  
12/1、2/16  
サイエンジャー科学教室  
12/8～9・15～16  
プラネタリウム祭り  
12/15(予定)  
プラネタリウムコンサート  
12/23  
sciキッズ限定バックヤードツアー  
1/5～14  
冬休み工作会  
1/9～10  
サイエンジャー科学教室 冬休み特別編  
1/11～13(予定)  
親子天文教室  
2/1・15、3/1・15(予定)  
詳しく学ぶ天文講座(全4回コース)  
2/2  
土曜工作  
2/7・21、3/7(予定)  
大人の星空教室(全3回コース)  
2/9・23、3/9  
大学生による科学教室  
2/23、3/23  
プラネタリウム夜間特別投影
- #### ●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)
- 10/27～11/1  
展示 ウミベオロジー／石狩海辺学2012  
(会場:紀伊國屋書店札幌本店)  
12月～3月  
テーマ展 資料館のお宝2013  
10/14  
野外講座 石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物

10/27

トークイベント ウミベオロジー／石狩海辺学2012  
(会場:紀伊國屋書店札幌本店)

11/10・17

連続講座 石狩大学博物学部

2月下旬

野外講座 石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物

#### ●北海道開拓記念館(011-898-0456)

11/3～3/17

テーマ展示 博物館資料の保存ー木をのこすー

11/3

文化の日講演会「アメリカ先住民はいま」

11/11

歴史講座「対雁に移住させられた樺太アイヌの暮らし」

11/17

文字で遊ぼう♪消しゴムはんこづくり

12/2

歴史講座「ある津軽人が記した幕末の松前・蝦夷地情報」

12/9

体験講座「記念館で新年祈願!?日本画材で絵馬づくり」

1/12

絵馬づくりにチャレンジ!

2/17・3/3・17

古文書講座「古文書に親しむ」

3/9

ヒツジの毛がなぜフェルトになるの?

### 後 志

#### ●小樽市総合博物館(0134-33-2523)

10/6～12/7

運河館小さな企画展「絵画?広告?引き札の世界」

10/13～12/28

小樽市市制施行90周年記念事業

「石炭と鉄道ー幌内鉄道全通130年ー」

11/3

運河館ギャラリートーク「物流のまち小樽と外来生物」

11/4

普及講座 ミュージアムラウンジ

「360度まわりますー転車台についてー」

#### ●財団法人 北ーヴェネツィア美術館(0134-33-1717)

8/28～11/26

レースガラス展

ーガラスの糸が織りなす美しきレース模様ー

同上

ふしぎな形のガラスたち

ーヴェネツィアン・モダンアートー

11/27～2/25

ヴェネツィアが世界に誇る 二代巨匠展

同上

ヴェネツィアの伝統 カーニバル展

### 渡 島

#### ●市立函館博物館(0138-23-5480)

10/16～11/18

企画展「新収蔵資料展」

11/10

わくわく科学教室「親子でイカを科学する」

1/11

冬休み自由研究「さし絵に挑戦!」(文学館と共催)

1/13

学芸員こぼれ話「函館に来た千島のアイヌ」

1/19

わくわく科学教室「もしも原子が見えたなら」

**上 川**

## ●北海道立旭川美術館(0166-25-2577)

7/4~11/7

福井爽人展

9/4~11/7

愛のヴィクトリアン・ジュエリー展

華麗なる英国のライフスタイル

11/17~1/14

天と地と人と 道北の美術コレクション

11/17~6/5

線の表現—素描を中心に—

1/22~4/7

木の造形100選

10/6~11/7

「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」

ワークショップ「王冠・ティアラをつくる」ロビー展

11/17・24、12/1

「道北の美術コレクション」ギャラリーツアー

1月(予定)

ウッディ★工作アトリエ

1月(予定)

冬休み工作市場

1/26、2/2・9

「木の造形100選」ギャラリーツアー

**十 勝**

## ●神田日勝記念美術館(0156-66-1555)

10/23~12/9

平成24年度特別企画展「神田日勝と新具象の画家たち」

12/11~4/21

平成24年度第2期常設展

12/8

第10回 日勝祭(生誕祭)

## ●北海道帯広美術館(0155-22-6963)

9/7~11/7

オブ・アート展

同上

田園に謳う—バルビゾン派の眼差し—

11/16~1/16

帯広美術館コレクション ベル・エポックのポスター

11/16~3/24

拡張する“版” プリントアートの展開

1/25~3/24

山に魅せられた画家たち

11/3、12/8、3/2

キッズ・ミュージアム

12/1、2/2

キッズ・ツアー

12/15・22、1/12

ミュージアム・カレッジ

1/13

オビビ・キッズ・アートフェスタ

1/25~27

おびひろ氷まつり協賛事業(予定)

2/16

特別展セミナー

**網 走**

## ●北網走北見文化センター(0157-23-6742)

11/3

科学の祭典

12/8~9

北見市高校生美術展

12/22~2/11

遙かなる旅 星野道夫展

3/2~20

美術・博物收藏品展

1/19~3/16

絵画教室「アートウォッチング」

2/23~24

道展北見移動展・実技鑑賞講座

11/3

太陽を見よう!(天体観望会)

11/10

銀河の森解説員出張観望会

12/8

木星とオリオン大星雲(天体観望会)

1/19

2013年天文現象ハイライト

## ●博物館網走監獄(0152-45-2411)

10/1~3/1

「光と影」建築写真展

12/2

冬の体験講座 「森の果実でクリスマスツリー作り」

12/27

正月準備 「鏡餅づくり」

1/7

「絵馬作り」

同上

「七草粥を食べよう」

2/3

「節分」年中行事

2/24

「初めての古文書解説教室」

3/3

「和紙でお雛様作り」

**釧 路**

## ●標茶町郷土館(015-487-2332)

9/21~11/30

自然系町内移動展「標本に隠されたひみつ」

1/14~3/29

歴史系町内移動展「よみがえる塘路アイヌの伝成品

—塘路アイヌと塘路コタンの世界—」

冬期(期日未定)

郷土館講座 冬のいきもの観察&amp;クッキーデコ体験

**根 室**

## ●根室市歴史と自然の資料館(0153-25-3661)

6/15~7/31

歴史と自然の資料館企画展『道東のコウモリ展』

7/26

コウモリ観察会

7/4・18、8/15、9/5・19、10/3・17

藤野家文書解読会

7/14~9/17

絶滅ほ乳類の世界展

9/19

星座観察会(秋)

9/16

自然観察会 秋の自然観察会

10/4~8

第45回科学の夢の図画コンクール